

# 中学部知的障がいの生徒 に対するかけ算の指導

# 生徒の実態

- 中学部生徒      知的障がい
- 発達年齢： 5 歳10ヶ月
- 足し算は30程度までの計算ができる。
- 引き算は 2 桁－ 1 桁の計算ができる。
- 時計を読むことができ、○時間前後を答えることができる。
- 硬貨（2 から 3 種類で各 5 枚程度）の合計を求めることができる。
- かけ算については、なかなか定着していかないのが課題である。

# 本プロジェクトのねらい

## かけ算の九九の正答率 100%へ

### 〈指導場面〉

- 対面学習
- 日常生活の指導（9：00 ～ 9：10） 週3 ～ 5回

### 〈指導方法〉

- iPad パワーポイント スライド教材
- 週の最終日にプリントでのテスト

## 保護者の願い

- これまで取り組んできたことが定着して欲しい。
- 国語（漢字の読み書き）や数学の学力（計算力、時計、お金）が少しずつ向上して欲しい。

## 教員の願い

- できる部分をもっと伸ばしていきたい。
- 定着を促せる有効な手立てを見つけたい。

# 指導方法（介入Ⅰ：数字のみ）

1. 誤答箇所のみプロンプトフェイディング法（3 試行）

+

流暢性指導（1 5 試行）

$$3 \times 8 = 24$$

$$3 \times 8 = \text{?}$$

$$3 \times 8 =$$

2. 誤答前後の指導 5 回（バックステップ修正法）

$$3 \times 7 =$$

$$3 \times 8 =$$

$$3 \times 9 =$$

確実に正答できるようになったら、1つ前のステップ（必ず正答できる）  
九九に戻って指導を開始し、正答したら盛大に褒める。

# アドバイザーからのご助言

- 「○×○=○」 全て唱える
- 現状がプリントレベル → 会話レベルでの実践へ  
(視覚刺激) (音声刺激)
- エコーを意識し、一言一句同じように読む
- イントラヴァーバルな実践へ

わしのマークの  
ごほんといえは

大正製薬  
龍角散

# 次の指導目標について

① よりエコー（音声）を意識した実践

★ 数字から『ひらがな』へ移行

② イントラヴァーバルな実践

★ 『かけ算かるた』の実施



# 指導方法（介入2：数字＋ひらがな）

1. 誤答箇所のみプロンプトフェイディング法（5 試行）

＋

流暢性指導（10 試行）

2. 誤答前後の指導 5 回（バックステップ修正法）

①

しいち      =      し  
4 × 1 = 4

②

しいち      =      し  
4 × 1 =

③

しいち      =      し  
                 =

④

しいち      =  
                 =

⑤

=

※ 3 の段は、正答率が100%を維持したため介入2から除外



# 指導方法（介入3：ひらがな）

1. 誤答箇所のみプロンプトフェイディング法（4試行）

+

流暢性指導（10試行）

2. 誤答前後の指導 5回（バックステップ修正法）

①

しいち=し

②

しいち='

③

しいち=

④

=

※3の段に加え、5の段、9の段も正答率が100%を維持したため介入3から除外

# 各段の正答率

コンサル前

コンサル後

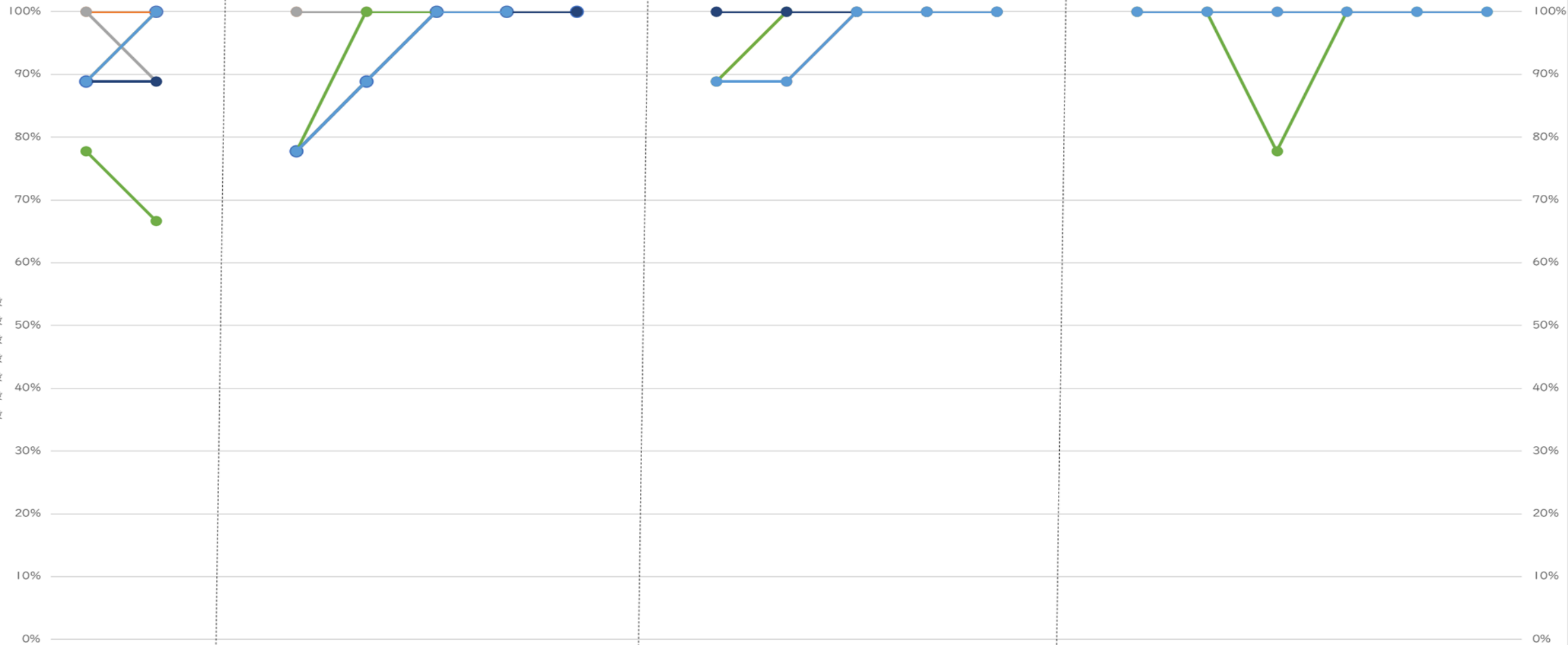
BL

介入1

介入2

介入3

- 3の段
- 4の段
- 5の段
- 6の段
- 8の段
- 9の段
- 7の段



# 今後の取り組みについて

- イントラヴァーバルな実践を行う
  - ★ 『かけ算かるた』の実施
- 『かけ算かるた』を通して誤答があった場合、記録をとり、プロンプトフェイディング法で確認する。



# 成功のポイント

- プロンプトフェイディング法のスライド（3種類）やかけ算かるたといった教材を開発し、それらが非常に効果的であった。
- 実践の中で早期に本人のつまずきに気付くことができた。  
例）3の段から誤答率が高まる「4」と「7」の発音
- 正答率が高まることで、本人が自信を持って活動に取り組むことができた。
- エコーを意識し、イントラヴァーバルと「ひらがな」で取り組むと、本人がよりスムーズにかけ算を唱えることができ、正答率が非常に高まった。

